

気象情報に関する情報提供

広島地方気象台・下関地方気象台

大雨時に段階的に発表される防災気象情報

気象庁は様々な防災気象情報を発表しており、線状降水帯に関する情報は、この中のひとつ。この情報だけに着目するのではなく、段階的に発表される防災気象情報全体を活用いただくことが重要。

先行時間

1週間前

5日前

3日前

12時間前

3時間前

1時間前

現象発生

記録的短時間
大雨情報

最大30分程度早く

顕著な大雨に関する
気象情報

土砂災害警戒情報

指定河川洪水予報

気象注意報・警報・特別警報

(大雨・暴風等に関する) ○○県気象情報

台風情報 (進路・強度予報)

線状降水帯による大雨の可能性の
半日程度前からの呼びかけ

週間天気予報・天気予報

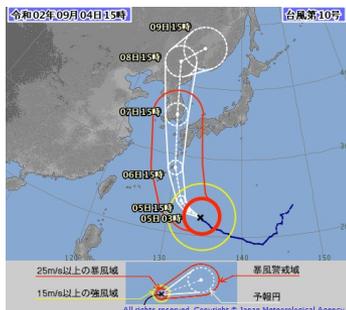
早期注意情報 (警報級の可能性)

降水短時間予報

ナウキャスト
(降水・雷・竜巻)

キキクル (土砂災害・浸水害・洪水害)

随時に発表



大雨による高・潮位に関する全観測情報 第1号

平成27年10月23日11時00分 気象庁地球環境・海洋部発表

【発出】

10月23日の満月の前後は大潮の時期にあたり、大潮の時間帯を中心に潮位が高くなります。東北地方から関東地方北部にかけての太平洋沿岸及び日本の沿岸の一部では、海岸や河口付近の低地が浸水や冠水のおそれがあります。

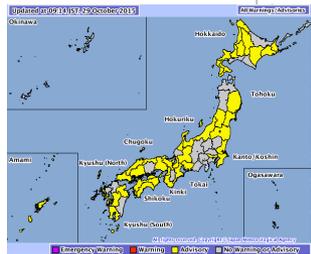
【本文】

潮から潮にかけては海水温が高い等の影響で、平常時の潮位が低地でも最も高い時期となります。また、10月23日の満月の前後は日本列島にあたるため、大潮の時間帯を中心に潮位が高くなります。

また、平成27年10月21日、東北地方太平洋沿岸を、中部地方から関東地方北部にかけての太平洋沿岸では強風が吹く予報があります。このため、東北地方から関東地方北部にかけての太平洋沿岸、中部地方、関東地方及び九州北部・中部地方の沿岸の一部では、10月23日から10月24日にかけて、大潮の時間帯を中心に海岸や河口付近の低地が浸水や冠水の恐れがあります。浸水や冠水の恐れがある場合は、さらに潮位に注意する可能性があります。

今後、潮位観測所から発表される高潮警報・注意報や潮位情報に十分留意してください。

「大雨による高・潮位に関する全観測情報」は本号のみとします。



定期的発表

能本県能本地方の早期注意情報(警報級の可能性)

同県能本地方では、6日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性が高い。

観測所	6日までの期間内		警報級の可能性	
	大雨	暴風	大雨	暴風
能本	(高)	(高)	(高)	(高)
能本	(高)	(高)	(高)	(高)
能本	(高)	(高)	(高)	(高)
能本	(高)	(高)	(高)	(高)

「顕著な大雨に関する気象情報」を、より早く提供します

令和5年5月25日～



「顕著な大雨に関する気象情報」について、現在は発表基準を実況で満たしたときに発表しているところ、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

○楕円データ（線状降水帯の雨域）

⇒データ配信（事業者等向け）

○「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例（線状降水帯の事例）

⇒気象庁HPの解説ページに自動掲載

「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用のコンセプト

- 情報の位置づけは、現在の「顕著な大雨に関する気象情報」を踏襲する。
 - 「線状降水帯」というキーワードを用いて、非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっていることを解説する情報
 - 警戒レベル相当情報を補足する情報で、警戒レベル4相当以上の状況で発表
- 本情報は、これまで発表基準を実況で満たした場合に発表してきたが、今後は「危険度の高まり」を少しでも早く伝えることができるよう、予測技術を活用し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。
- 本情報が発表された際は、これまでと同様に、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況となっていることを踏まえ、適切な防災対応をとることが重要である。

「顕著な大雨に関する気象情報」の新運用における発表基準

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を踏襲しつつ、「現在から30分先までに雨量や危険度の基準を満たす場合」に発表する運用に変更し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。

現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を実況で超過



新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表例

- 線状降水帯に伴う大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況を端的にお知らせするため、新たな運用においてもこれまでと同じ内容で発表する。

【情報の発表例】

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報 第1号

令和5年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇気象台発表

(見出し)

これまでの情報文と同じ

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

(本文)

なし

(参考) 線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ

令和4年
6月1日～

- 線状降水帯による大雨の可能性が高い場合に、気象情報において、半日程度前から地方予報区※単位等で呼びかける。 ※全国を11ブロックに分けた地域
- 警戒レベル相当情報を補足する解説情報

大雨が予想される際に発表される気象情報に、線状降水帯発生の可能性がある概ね半日から6時間前まで、線状降水帯のキーワードを用いて言及。
概ね6時間未満となると具体的な避難行動が必要になるため、より具体的に大雨の状況を解説し、大雨警報やキキクル等、様々な情報の活用を呼びかけ。

大雨に関する〇〇地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇気象台発表

<見出し>
〇〇地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>
… (中略) …

※ 原則、「〇〇地方」と記載 (全般・地方・府県)
※ 全般気象情報は、「台風第〇号に関する情報」というタイトルで発表されることもある。
※ 定時以外では、短文情報の形で発表することもある。

[量的予想]
<雨の予想>
〇日〇時から〇日〇時までに予想される24時間降雨量は、いずれも多い所で、
〇〇県 〇ミリ
〇〇県 〇ミリ
〇〇県 〇ミリ

の見込みです。
線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。
… (中略) …

[補足事項]
今後発表する防災気象情報に留意してください。
次の「大雨に関する〇〇地方気象情報」は、〇日〇時頃に発表する予定です。

予想雨量と併せ、線状降水帯が発生した場合にはさらに状況が悪くなる可能性があることを伝える

➤ 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めることを目的とした情報。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせて活用。

➤ 市町村の防災担当の方々：避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられる。

➤ 住民の方々：大雨災害に対する危機感を早めにもって、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられる。